

会報

55号

函館

函館の歴史的風土を守る会会報
 No.55 H.8. 12. 1
 発行所 函館の歴史的風土を守る会
 事務局 函館市五稜郭町4-3-9
 五稜郭タワー株式会社内(中田)
 電話(0138)51-4785
 印刷所 (有)三和印刷 電話45-0845



(基調講演の後のパネルディスカッション・於五島軒本店)

5都市、21団体、140名参加のもと 第4回開港5都市景観会議開かる！

安政5年(1858)日米修好通商条約が締結され、箱館(函館)・神奈川(横浜)・長崎・新潟・兵庫(神戸)の五港が開港された。

「開港五都市景観会議」は、開港より138年間と言う時が流れ、各都市それぞれの歴史を刻んで来た認識を踏まえて、各地で展開している「町並み保存」「景観保全」「町づくり」運動等に携わる各種市民運動団

体が直面している課題についての情報交換の場を持ちたいと言う、神戸市の市民団体の呼びかけで(1993)誕生した。

以来、神戸市(第1回)、長崎市(第2回)、新潟市(第3回)と順次持ち回り、第4回は、去る10月18日~20日までの3日間、約140名参加のもと、当函館市で開催された。



(開会式で挨拶する浜島会長)

歴史・伝統・創造の輪を求めて

ネットワーク

浜島 国四郎

本日、4都市よりお越しの皆様をお迎えし、「開港5都市景観会議函館大会」を開催出来ますことを嬉しく思います。

特に、基調講演いただく、浄土宗名寺住職・須藤隆仙氏。パネルディスカッションのコーディネーターを引受けられた、北海道教育大学函館校教授・奥平忠志先生、両先生には改めて感謝申し上げます。

先にご案内の通り、今回は、北海道がすすめている「歴史を生かすまちづくり」事業と函館市が主管する「景観ウォッチングとフォーラム」事業、更に函館大会実行委員会と三者の合同事業として企画、運営されて居ります。

今大会は「北の開港都市に民の系譜をさぐる」をテーマにかかげました。

神戸・長崎・新潟・横浜・函館と各々に異なった状況の下での開港でした。

函館には「官主導ではなく、民主導であった」という言い方があります。

開港を契機に海外から、どっと流れ込んだ文明・文化に驚嘆しながらも、自分たちの生活の中できちんと受け止め、取り組み、自分たちの力で函館らしいとい

われる「函館のハイカラ文化」・まちづくりへと高めて行った先輩たちへの市民の賛辞であり、誇りの言葉である考えます。

ともすれば住民の意志とかかわりなく、金ピカで顔のないまちづくりになりがちな今日この頃ですが、この大会を通して、開港を遠い昔話としてではなく、それに立ち向い、自分たちの文化・まちをつくりあげた先輩たちの思いとエネルギーを学びあい、明日にむけての私達のまちづくりへの糧に出来ればとの願いをこめました。

ご参加の4都市の皆様には、私達がこの函館の地で、先輩たちより受け継ぎ大切な誇りと思っているものの素顔を見ていただき、率直な意見をいただければと思います。又地元より参加の皆様には、折角の機会ですので、遠来の方々と交流を深めて頂ければと思います。

図らずも予期せぬ衆議院議員選挙の投票日と重なり、出席出来なかった方が多かったことは誠に残念ですが、どうか皆様には、世界三大夜景の一つ、函館山、漁火、津軽海峡の激流にもまれた旬の「秋イカ」をお楽しみ下さいませよう御案内申し上げます。

大会アピール宣言文

1996年秋、開港5都市景観会議函館大会が開催された。長崎、神戸、横浜、新潟、函館の歴史と志を同じにする仲間たちが一堂に集い、「北の開港都市に民の系譜をさぐる」を基本テーマに掲げて3日間、熱い意見を交換しあった。

今、日本の都市は混沌として、その進むべき道を見失ってしまったかに思えてならない。

歴史を失い、個性を失い、真の美しさや豊かさを求める志すら忘れ去られているかのようだ。

こうした時代にあって、開港という日本の歴史始まって以来の出来事を記憶として、その都市の核に隠し持った、我々5つの都市の役割と責任は非常に重大であると確信する。

神戸に始まり、長崎、新潟を経て函館に引き継がれてきたこの会議は、まさに民による民のためのまちづくりを目指すものに他ならない。

海外から流入したさまざまな文化や文明を自分たちなりに咀嚼して、自分たちのものにしてしまった民のエネルギー。

これこそ、まちづくりには欠くべからざるものに相違ない。

今後、より多くの都市や市民の支持を得て、この会議は21世紀のための豊かで美しい都市環境を創り上げる力となるであろうことを確信し、ここに宣言する。

平成8年10月20日

開港5都市景観会議函館大会 分科会報告

元町倶楽部 榎木博史(函館市)

大会2日目、第2分科会は開港5都市景観会議にふさわしく、函館の伝建指定建築のひとつである元町港が丘教会を会場に、40名程を集めて開かれた。会議のテーマは「未来に向けた開港都市」、独自の個性豊かな発展を挙げたそれぞれの開港都市が、その遺産を未来にどのように伝えていこうとするのか、賢明な選択肢を期待してのぞんでみたものの、経済活動の盛んな都市からは、横浜のみなどみらい21、神戸震災後の復興計画、新潟万代島再開発計画など、大規模な公共投資のプロジェクト計画が報告され、大きな都市開発計画をもたない長崎、函館との差異が感じられた。

函館からは、西部地区のウォーターフロントや街路の街並み整備、緑の島計画等を簡単に説明したあと、これらの計画も開港文化遺産を残そうとする努力の計画とはいえ、観光的面的がつよく、かえって住民

の精神遺産とは異なったどこにでもある景観になりつつあるような気がする」と報告し、歴史的開港遺産を守り残そうとする各都市の住民運動の事例を紹介してほしいと提起してみた。

長崎からハウステンボスなどの開発とは別に、旧市街の景観にホンモノを残そうとする動きがでていこと、横浜では4年前にようやく中華街の24団体が結束

して中華街憲章をつくり、中国人らしさの追求と、店づくり、人づくりにつとめることを確認したり、個性を失う建築協定は行わないことを申し合わせたこと、また神戸から住みやすい、人にあたたかい街をめざしていることなどの発言があった。

この後しばらくは、参加者も交えて「観光の街づくりにおよぼす影響と功罪」が話題の中心となって活発な論議がつづいたのだが、それぞれの代表母体や、各都市の性格の違いがみられてかみあうことがなかった。

開港文化の遺産を受け継いだわたしたちが、未来になにを伝えてゆくことができるのか都市の話し合いがなにをもたらすかは、過去3回の会議においても手探りであったという、わたしは過去の文化遺産を守ると同時に新しいものをもつくり続けなければならない、歴史を共有した縁で知己をえた開港5都市の会議

は、共通するものと違いを新たに認識することで、それぞれが固有の魅力の街を築く糧とすることができたなら、より意義深いものとなり、なお発展的に考えるとするならば、開港を受け入れた5都市だけでなく、やってきた国の人たちとの交流を含むことができれば、この会議が大きな未来への知恵となりうるのかもしれない、などと考えさせられた部会討議でした。



教会の礼拝堂での分科会風景

市民主導のまちなみ、まちづくり

＝開港5都市景観会議函館大会に
お招きいただいて＝

(株)地域問題研究所 山本 俊 貞 (西宮市在住)

行政施策の決定過程に参加するだけでなく、市民が主導的に実践活動を行い、これを行政が支援するといったことが随所のまちで実現すれば素晴らしいとの思いから「市民主導のまちなみ、まちづくり」をテーマに、4年前、神戸で第1回を開かせていただいた「開港5都市景観会議」ですが、回を重ねる毎に参加者相互も顔なじみとなり、また各々の都市の事情もある程度理解できるようになったことから、内容のある交流となってきたように感じます。

まちなみ景観の形成には、地元住民や企業の主体的取り組みが何より重要です。単なるお化粧だけでは、映画村的まちなみはできても、地域固有の文化を形成・維持することは困難です。そこに住み、働く人々の生き生きとした営みがあってこそ魅力的なまちなみを形づくることも可能になりますし、その結果として観光客の来訪も誘うのではないのでしょうか。

この意味から、函館には自分達のまちを見つめ、愛し、そして主体的に活動されている市民グループが幾つもあり、多くを学ばせていただきました。一部には過度の観光地化と目に映るところもありましたが、地に根をはった皆様方の活動が続けられる限り、これも是正されると信じます。

今後とも、5都市の市民団体が、開港文化の原点と

もいえます「交流」を深める中で、セレモニーを越えて、「保存と開発」「観光と住民環境」などテーマを絞った議論と情報交換が続けられることを期待します。そして、その糸口を函館の皆様がつくってくださったように思います。ありがとうございました。

神戸では、震災から2年近くが経過し、あたかもプレハブ住宅の展示場のようなまちなみがあちこちで出現しつつあることも事実ですが、一方で、地域住民等によって、震災後の神戸市内だけでも70以上もの「まちづくり協議会」が設立され、自分達のまちについて熱心な議論がなされています。当面は生活や産業の再建に重点が置かれていますが、まちなみや景観なども今後論じられなければならない大きな問題です。これらは、本来表裏一体の問題で、総合的なまちづくりへの合意と取り組みがあってこそ、復興は可能です。そして、開港5都市景観会議に参画する神戸からの組も増やしていきたいものです。

開港5都市景観会議函館大会へのお招き、本当にありがとうございました。

<景観の保全と再生の共通項>

横浜市 “関内を愛する会” 池田 翼 (横浜市在住)

バブル経済の負の遺産ともいべき景観の破壊が気になる昨今、景観について議論する会議と聞き、初参加してみました。

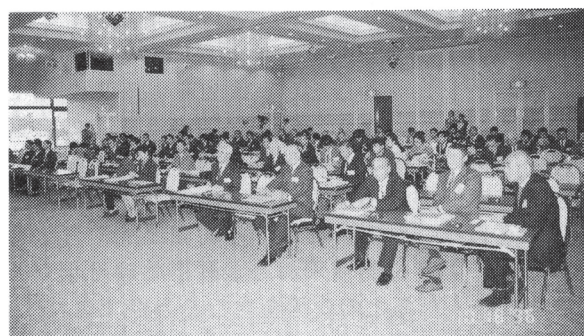
開港5都市の共通項は“外国人の居留地”と知り、更に、戦災、震災、大火等の災害に遭遇し、開港時の資産の多くを失っている、という共通項も発見しまし



基調講演する須藤先生



奥平先生(コーディネーター)のリードで...



大会場を埋めた参加者...

大会
ス
ナ
ツ
プ



メモをとり発言に耳をかたむける聴衆



フォーラムでは熱心な質問も出た。



ウォッチングでボランティアの説明を聞く…



「公会堂」を見学する参加者…

た。

こうして失った歴史的景観をどのようにして再生するか、大きな課題かと思えます。ヨーロッパ等では戦災で破壊された街を丸ごと復元した例もあるようです。

また、幸いにして残された歴史的、伝統的建造物の保存、活用も各都市それぞれ苦心しておられるようですが、共通の課題として議論を掘り下げるべきかと思われま。

更に、天災による景観破壊は、一度に大きく襲ってきますが、相続税によるそれは、長期に渡りジワジワ効いてきます。人災による景観破壊と言っているかも知れません。

こうした観点からの議論を積み重ねながら、新たな共通項を模索し、開港5都市が核となり、全国的に輪が広がることを期待したいと思います。

開港5都市景観会議函館大会に参加して

横浜市山手まちづくり協議会 代表幹事 鈴木 嗣 磨 (横浜市在住)

10月18日～20日の3日間、浜島会長はじめ函館の皆さんの暖かいおもてなし、あらためて御礼申しあげます。

私共横浜市からは6団体と市職員あわせて15名が参加致しました。

山手まちづくり協議会では飛行機で行くのも味気無く、寝台特急『北斗星』で函館までまいりました。いつもは見られない角度から函館の街、函館山を車窓の対岸に見ながらほのかな旅情に浸りつつ函館駅に下り立ちました。

函館大会の基本テーマは『北の開港都市に民の系譜

をさぐる』でした。

基調講演は須藤隆仙先生の『函館開港における地域文化への影響』でしたが異文化との接触による文化変貌や供給品用達による産業変革などいろいろな切口からのお話、大変興味深く拝聴致しました。

パネルディスカッションは『市民主導のまちなみ・まちづくり』でしたが、そもそもパネルディスカッションは短時間の中で何らかの結論を引き出す性格ではなく共通項をみつけ出す方法のように思われます。奥平先生は昨年の暮NHKの番組で拝見しておりコーディネーターを引受けて下さり有難く思っております。

第2日目の分科会は第1分科会を選択しました。『開港文化って何だろう』がテーマでした。このテーマの発表者の受取かたが様々でキーワードとは異なったものになってしまい、真の開港文化にふれることなく終わってしまったのは非常に残念でした。

横浜では開港時に『文化』の大半はアメリカ人が『文明』はイギリス人がもたらしたと残してくれたと理解しています。ヘボン先生、バラ先生の残されたヘボン式ローマ字やプロテスタントキリスト教、日本女子教育の礎を作った下さったキダー先生、ピアソン先生、いまでも先生方の残された『文化』脈々と続いています。こんな話を分科会で交わしたく心残りになっております。

来年は横浜が大会を開催致します。横浜市が区制をしいて70周年になる節目の年でもあります。来港される4都市の皆さんとともに意義深い大会にしたいと考えております。

横浜の素晴らしさを存分に味わっていただきたく頑張る準備を整えて行く所存です。

町並みゼミ犬山大会に参加して

厚谷享子 (函館市)

「山と川と古城のまち」犬山での第19回大会は、「みんなで考えよう保存・育成・創造の町づくり」をテーマとしてその幕を開けた。人口わずか7万人余りの市に、北は小樽から南は竹富島まで、全国各地から、歴史的環境の保存・再生に意欲的に取り組んでいる人々や研究者、行政関係者など約600人が集い、9月の末、3日間のゼミが繰り広げられたのである。

第1日目の舞台は、市民文化会館。開会宣言に始まり、関係者の挨拶のあと、名古屋大学名誉教授小寺武久氏の「城と城下町」と題した基調講演、そして全国から14団体の代表が活動状況の報告を行なった。この夜は、恒例の懇親会が市民体育館で開催され、名古屋コーチンの焼き鳥、きしめん、味噌カ



大会閉会式
中央演壇は石田犬山市長

ツといった心づくしの地元料理の模擬店が20余りも並び、100人ほどの主婦ボランティアが、お揃いの黄色いエプロン姿で実に温かいもてなしをしてくれた。おそらく、参加者は皆、小高い丘の上の古城を眺めつつ、宿舎への道を歩きながら、胃袋も胸もいっぱいを感じていたことだろう。

翌2日目。たまたま日曜朝市の最終日であったので、旅館の前の木曾川沿いを散策しながら覗いて見ると、

野菜、花き、漬物といった地元の特産品のほか、手作りのパン、手工芸品や陶芸品、さらに中古品を扱う店もあり、フリーマーケットのような楽しい会話ははずむ朝市で、旅の途中にあることを忘れて、驚くほど安い花など買い求めたいところであった。

この日は午前中、明治村を自由見学。約2時間、本の近代の黎明を語る建物群を見て回ったが、時間に気がかけながらの視察は少し残念なところであった。

それでも、終盤近く、池を前庭にフランク・ロイド・ライト設計の帝国ホテル中央玄関の凛として建つ姿を目にしたとき、何か心の琴線に触れた気がしたのを覚えている。

午後の城下町探訪では、犬山城の最上層の展望台から木曾川と山々に

囲まれた市街地を眺望。4月の犬山祭に繰り出す山車のからくり人形展示館などを見学した後、今回の大会実行委員長のご自宅の奥村邸をはじめとした個人の住宅の内部や庭の隅々まで、快く見せていただいた。ここでもボランティアの方々が街角に立ち、道案内している様子を見て実にありがたく思い、今大会を契機にまちづくりに寄せる市民の意識の高さを感じた。

この後、私が出席した第1分科会では、「歴史ある

町の都市計画」をテーマに、彦根、日南、犬山の3市長が、同じような城下町において、偶然にも同じ「本町(ほんまち)通り」と呼ばれる都市計画道路の拡幅



国宝「犬山城」

問題について事例発表をされた。高度成長期およびそれ以前に策定された都市計画は、歴史や文化を重視する価値観の高まった現代の視点で再検討されるべきであり、犬山市においては現在6メートル余りの幅員を拡幅するのは好ましくないという意見が多かった。私としても同意見で、車が高速で通り抜ける便利さを手にすることに比べ、失うものがあまりにも大きなことに気付くべき時ではないかと思う。

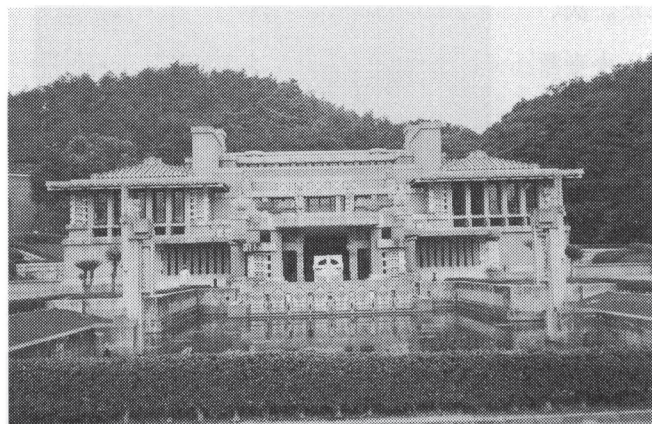
閉会式の3日目は朝から雨模様。四つの各分科会の報告のあと、栃木駅舎について、「近代文化遺産として重要な栃木駅舎の保存を強く希望する。」と大会決議を読み上げた。

さらに、10年、15年ゼミ連続参加者の「とうとう会」

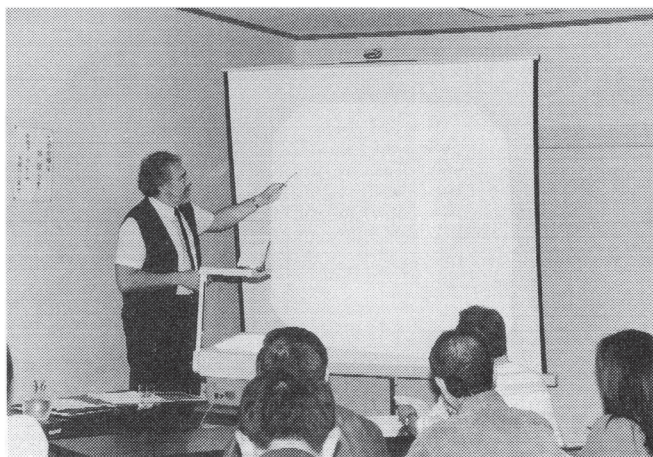
表彰が行われ、本大会参加者中最高齢、94歳の方も10年の表彰をお受けになり、会場から盛大な拍手が沸き上がった。大会宣言を読み上げ、次期開催地の新潟県村上市の挨拶、そして、大会実行委員長、犬山市長の挨拶と続き、東京工業大学名誉教授、平井聖氏の「建築の時代考証」と題した記念講演で、3日間の大会の幕を閉じた。

このゼミを通じ、多くの諸先輩がまちづくりにかける意欲を高め、親睦と交流を深め、いきいきと輝きながら歳を重ねていっしやる様子を目の当たりにし、羨ましいほどの印象を受けた。

4月、犬山祭りの頃、新緑の山々に囲まれた落ち着いた城下町の佇まいの中、桜並木を13台ものからくり人形を載せた山車が、練り歩くさまを見るために訪ねてみたいと思う。



明治村内
帝国ホテル中央玄関



講演会報告

平成8年7月6日、函館市の福祉センターで、セント・メリーズ大学の歴史科教授・p.h.D. ジェームズ H. モーリソン氏(城砦の研究家)を招いて、『ついでに攻撃されなかった砦：ハリファックス城』と云うテーマで、当会主催の講演会が行われた。

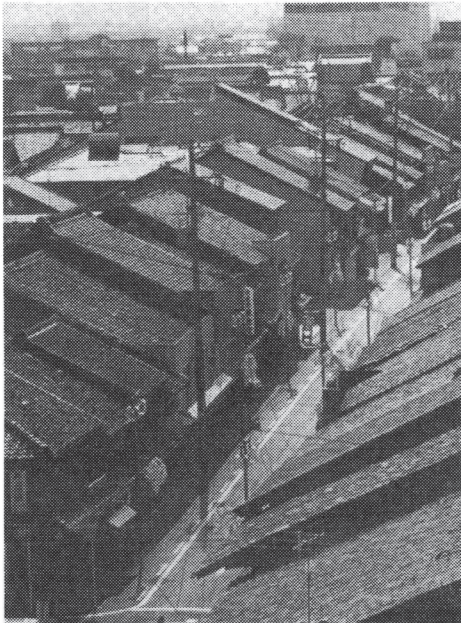
「五稜郭」に似た構造のハリファックス城がフランス・イギリス・アメリカ・カナダの歴史の波に翻弄されたが、現在は歴史遺産として武器と民族衣裳の陳列場となっていることが報告され、参加者の興味をさそった。

第19回全国町並ゼミに参加して

田尻利忠(会員)

今年の全国町並ゼミは、9月28日より3日間、犬山市で開催された。

13時、犬山のビデオ紹介と高校生による犬山祭カラクリ人形の上演の後、開会式が行われた。次いで、小寺教授(中部大)による『城と城下町』



本町通りの町並み(犬山市)

の基調講演

では、城郭の立地・機能とデザイン・城下町の都市計画・武家屋と町屋の空間形態・武家地と町地の空間特性・広小路と焼地・等々、城下町の特徴を明解に解説された。

後、各地より「駅舎保存に取組中」(栃木市)。「芝居小屋共楽座の保存活用に取組、支援乞！」(日立市)。「甲突川石橋群は取払われた、御支援に感謝」(鹿児島市)等報告された。

2日目の午前中は明治村見学、午後は各自犬山市内を探訪巡検し、近世以来の道路が現存し、町家の群れが健在している事を確認し乍ら、分科会会場

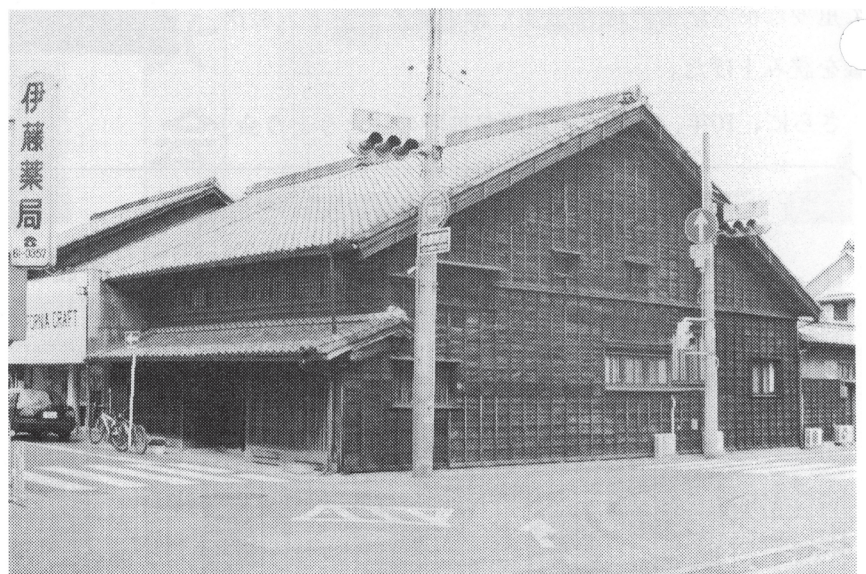
へと向った。

分科会はI「都市計画と町づくり」・II「町並と観光」・III「町並と伝統文化」・IV「町並の災害対策」と分かれた。

◇I分科会に出席したので多少詳細に報告する。

同じような城下町をもち、開発と保存の問題を抱える日南・彦根・犬山の3市長より事例発表があった。

日南市は明治～昭和30年代まで林業で栄え岩垣と生垣がゆかしい、^{おび}飫肥伊東家5万1千石の城下町である。昭和45年商家町本町通りを走る国道のバイパス計画が打出され、本町通拡幅を望む地元の声もあり、昭和48年に決定された。その一方で、昭和52年「重要伝建群保存地区」に選定、昭和58年、延べ9km弱の工事は完成した。昭和59年～平成7年にかけて、建設省・自治省・経済同友会・国土庁の「町づくり賞」・「都市づくり賞」・「都市整備賞」を受け広く全国に向けてTVで報道された。

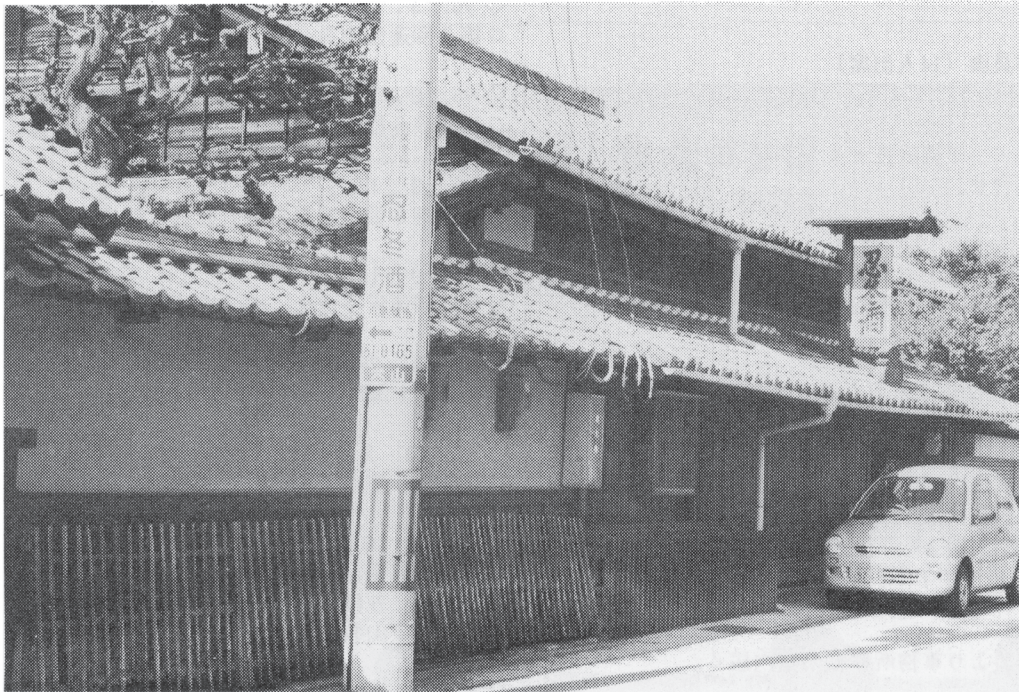


◇真野邸(犬山市中本町)
明治中期の建築(濃尾地震後)

人口の流出・商家の後継者難、高齢化、大型店対策者等日南市でも今後の課題が多い。

彦根市は「町筋の改変」に長期に亘る民意調査を行って来た。道路拡幅やリゾートホテルの設計を景観に適

3日目、9時閉会式。次回ゼミが村上市(新潟県)で開催と決定。次で平井教授の「建築の時代考証」と題する記念講演があり散会した。



◇忍冬酒・和泉屋(犬山市練屋町)

江戸時代町屋建築の一つ、平入り、機瓦葺正面側、2階は半間さげて、ツシ2階(ツシ:家の屋根裏の物置場、竹簀子^{たけすこ}で床張)、間口一杯^{ひまし}の庇、出入口脇の太い木の格子戸、店の格子戸は粗く、裏に細い格子が犬山商家の特徴という。

合せた事例を報告した。

犬山市は古い家並が数多く残る本町筋や旧中山道に都市計画道路が計画された。計画策定当時と現時点では価値観も異なり、再検討が必要であろうとの表明があった。

質疑に入り、日南市へ「会津若松の事例を研究したい」と提言があった。彦根市には「省エネ・アセス・伝建物修復の技術伝習の必要性」の質問があり、同市長より、「城の濠のヘドロから建設材料を造った」「アセスも何度もやった」「彦根でも伝習をやっている」等応答があった。伝建の修復技術の伝習に就いては、此が普及して器材資材が普遍すれば生活の臭いとする町屋復元にも弾みがつくというものだ。

グループだより

- 越浦 6号 「坂越のまちなみを創る会」1996.3
- Ponte No.6 「勝鬨橋をあげる会」1996.6
- から No.12 「函館からトラスト」1996.6
- 「おしま地域政策だよりNo.1」
「渡島支庁地域政策部」
- 有松 No.35 「有松まちづくりの会」
- おおの No.45~50号
「大野町文化財保護研究会」
- キーストン No.14
「札幌建築鑑賞会」1996.10
- ウォーター・フロント・サミットインNAGASAKI
「全国ウォーターフロント・サミット実行委員会」1996.10
- 町づくり函館市民会議通信 1996.9月発行

事務局日記

- ◇'96. 6. 19
 - 北大教育学研究科大学院生の大谷・高橋両氏来訪。
 - 「砦」の研究者ジェームス・H・モーリソン氏(カナダ・ハリファック市)の講演会企画もち上る。
- ◇'96. 6. 28
 - 第2回運営委員会(14人出席)
- ◇'96. 7. 2
 - 教育大に下山・小平両教授・モーリソン先生を訪ねて講演会について打合せ。
- ◇'96. 7. 6
 - 『ついで攻撃されなかった砦：ハリファックス城』歴風主催の講演会、於 市福祉センター、計32名出席。終了後懇談会開催する。
- ◇'96. 7. 7 機関紙「れきふう」第54号発行。
- ◇'96. 7. 24
 - 箱館奉行 復元促進期成会H8年度総会 於 商工会議所会議室。
- ◇'96. 7. 20 第19回全国町並みゼミ開催要項届く。
- ◇'96. 7. 24
 - 全国町なみ連盟より事務所移転の案内届く。
- ◇'96. 7. 27
 - 札幌建築鑑賞会見学会の案内届く、旧小熊邸保存運動のための絵葉5部協力。
- ◇'96. 7. 29
 - 市港湾部へプロムナード2期工事の件で会長他3名訪問する。
 - 「おしま地域政策だより-第1号-」受領。
- ◇'96. 8. 1
 - 事務局の件で会長他2名、タワー(株)中野社長を訪問する。従来通り事務局を設置、両角氏が担当者に決まる。
- ◇'96. 8. 2
 - 中野社長、会長他1名、市企画部の今井部長・和田係長を訪ね、モーリソン氏の五稜郭サミットへの代表参加を要請する。
- ◇'96. 8. 8
 - 「'96全国ウォーターフロントサミットイン長崎」参加申込と原稿依頼あり。
- ◇'96. 8. 26
 - 「開港5都市景観会議函館大会」準備会、吉村副会長出席
- ◇'96. 8. 28
 - 村田氏(長崎)より、ウォーターフロントサミットの出席勧誘あり。
- ◇'96. 8. 29
 - 先般のプロムナード計画の件につき、会の要望事項がかなり容認された由、上貞担当者より報告あり。
- ◇'96. 9. 4
 - 第3回運営委員会
- ◇'96. 9. 14
 - 「開港5都市景観会議」担当者打合せ会議。
- ◇'96. 9. 17
 - 「開港5都市景観会議」担当者打合せ会議。
- ◇'96. 9. 18
 - 第4回運営委員会 於 五稜郭タワー
- ◇'96. 9. 28~30
 - 第19回全国町並みゼミ、犬山市で開催。田尻利忠会員出席。
- ◇'96. 10. 2
 - 「開港5都市景観会議」の案内状会員へ発送。
- ◇'96. 10. 6
 - 「五稜郭奉行所復元促進期成会」講演会案内到着(11月16日 於 五稜郭タワー)
 - 教育大下山教授より、モーリソン氏の手紙転送される。
- ◇'96. 10. 11
 - 第5回運営委員会 13人出席。「開港5都市景観会議」の内容確認、分担、役割を決める。
- ◇'96. 10. 14
 - 「開港5都市景観会議」の事務局最終打合せ、於 市役所、市より4人、渡辺氏、村岡氏、会長。
- ◇'96. 10. 16
 - 高田屋資料館へ「はこだて史譚」10冊出荷。
- ◇'96. 10. 18~20
 - 「開港5都市景観会議函館大会」開催。
- ◇'96. 11. 12
 - 「正副会長会議」、チャリティについて。
- ◇'96. 11. 19
 - 「開港5都市景観会議函館大会」実行委員会解散会。

編集後記

- ◇遠方より多くの御寄稿いただきありがとうございました。早い時期にいただきましたが、発行が遅れましたことお詫びいたします。
- ◇今号の写真は、函館市役所・厚谷・田尻・飯田各氏より拝借いたしました。厚く御礼申し上げます。